

3号機 タービン機器冷却水熱交換器の点検作業について

平成 16 年 11 月 15 日

運転中の3号機において、タービン機器冷却水系統（1）への冷却水（脱塩水）の補給量が通常より多くなったため、調査を行った結果、2基あるタービン機器冷却水熱交換器（2）のうち、熱交換器（B）内で冷却水が海水側に流れ出ていることが確認されました。このため、11月16日より熱交換器（B）の点検・修理を行うこととしました。

冷却水の補給能力（約8000リットル/hr）は、現状の補給量（約30リットル/hr）に対し十分余裕があるため、冷却機能上の問題はありますが、予防保全の観点から、点検・修理を実施するものです。

点検・修理にあたっては、残りの熱交換器（A）でタービン系機器の冷却が可能なことから、通常運転の状態で行い、出力の変動等はありません。

なお、外部への放射能の影響はなく、3号機は安定して運転継続中です。

- 1 タービン系機器（各種ポンプ、モータ等）の冷却を行うための系統。この冷却水（脱塩水）に放射能は含まれていません。
- 2 タービン系機器（各種ポンプ、モータ等）の冷却に使用された冷却水（脱塩水）を、海水との熱交換により冷却するための設備。

以上

3号機タービン機器冷却水系統概要図

